新潟大学地域映像アーカイブデータベースと新潟県立図書館の新聞データベースとの統合へ向けて

原田健一（新潟大学）

1. 統合型データベースの構築、その社会的背景

今回、新潟県立図書館の新聞データベースと新潟大学地域映像アーカイブのデータベースの統合に向け、一歩を踏み出すことになりました。マス･コミュニケーションである新聞記事のデジタル化したコレクションと、社会の中間的なコミュニケーションというべき「地域」コミュニティに関連する映像を発掘･デジタル化したコレクションとを統合します。ゆくゆくはこれら地域メディアの情報（コンテンツ）を集合化し、横断的に検索し、研究するなど、さまざまな利活用に応えようとするものです。

既に、新聞社が行うデータベースや、放送局、あるいは資料館、アーカイブなどが単独で行うデータベースは数多く存在しています。しかし、現在、こうしたさまざまな資料、デジタルデータを横断的に結びつけることは行われていないだけでなく、そうした新しい創意に満ちた研究も行われていません。

もちろん、こうしたデータの統合は、研究的な課題に応えるだけではない社会的意味を有しています。こうした社会の情報コンテンツを文化資源として共有化するためには、異なる領域の機関である博物館、資料館、図書館、大学、産業界と提携すること、これをＭＡＬＵＩ連携といいますが、そうした大きな社会的な枠組み、システムを創出する、既存の社会システムの再構築という大きな社会的動向と関わっています。統合型データベースの構築は、単なる研究という枠では収まらない、大きな社会の流れなかにあり、自らもそうした動向に関わろうとするものです。

現在までに、新潟県立図書館では、戦前期の地域新聞のデジタル化が終わり、データベースを構築する段階に来ています。さらに、新潟大学地域映像アーカイブの映像データベースは準備段階を終え、本格的な運用体制へと移行しつつあります。今回の取り組みは、この二つのデータベースを検索できる、統合型データベースを構築するために、新しい検索システムの作成を、イパレットとグローバルネットコアが開発し行うものです。

この三者の連携によって開発されたシステムが運用できるようになった場合、今後、県内の他の関連機関のデータの統合が大きく進むことになるでしょう。さらには、研究利用が主となっていたデータベースはさらに汎用性を高め、小中高校などの学校教育に映像などさまざまなデジタル情報を提供することを通して、社会･文化全体をボトムアップする基盤を創出することになることが期待されます。

2. 統合型データベース構築によって明らかになる新たな研究的な意味

既に述べたように今回の統合型データベースは、異なったジャンルのデータ群とデータ群とを統合することで、既に社会に実在するが不可視のものとして存在していた資料空間を現出させるものです。こうした新たな膨大な資料空間、群としての資料を分析する新たな研究方法の開拓という大きな転換を促進するものです。

こうした資料･映像のもつ社会的な関係性、場のコンテクストを明確にするには、必ずしも、その内容にこだわらない、横断的な関係性のあり方を探り出す必要があります。歴史資料、民俗資料、芸術資料など個々の研究領域の枠組みの内で見ていたのでは分からない関連性、社会的な文脈を読み解くためにデータ群とデータ群とを関連づけ、媒介することで、社会で生み出されている不可視の構造性、社会的意識、感情、感覚の共通性をえぐり出すことが可能になるのです。

その意味で統合型データベースは、今まで目の前の日常生活の中で生起していたにも関わらず、実体化できなかった現実を新たな研究概念、パラダイムによって捉え直すことを可能にするものとなります。

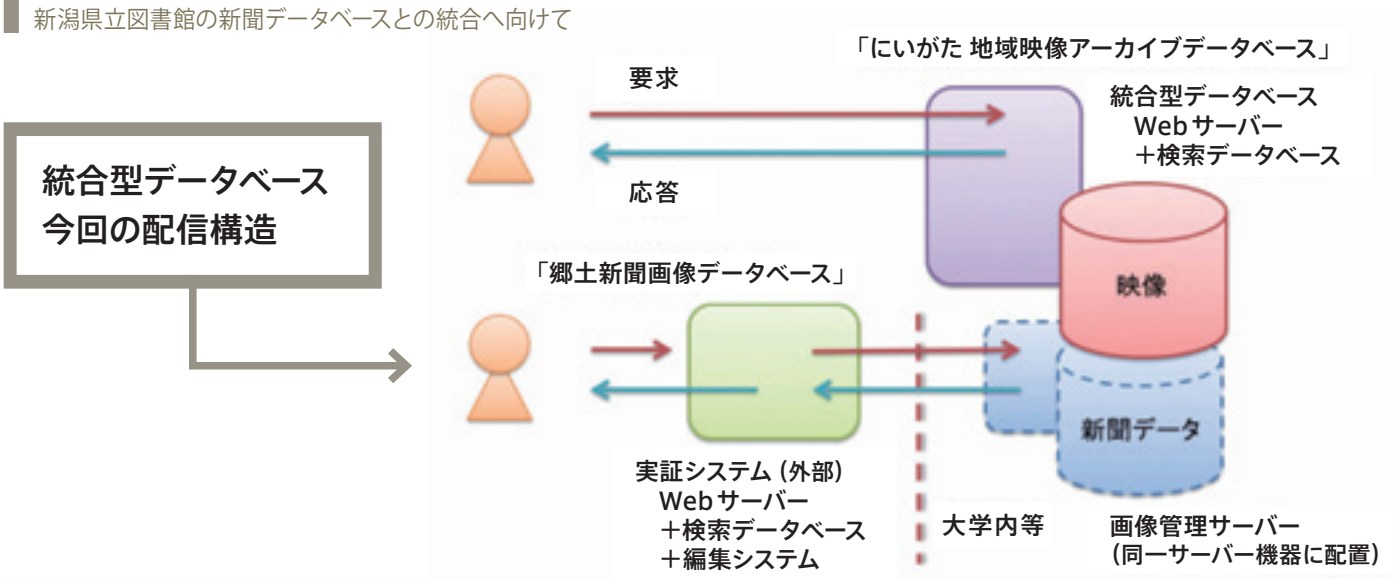
3. 統合型データベースを構築するための新たな技術の開発

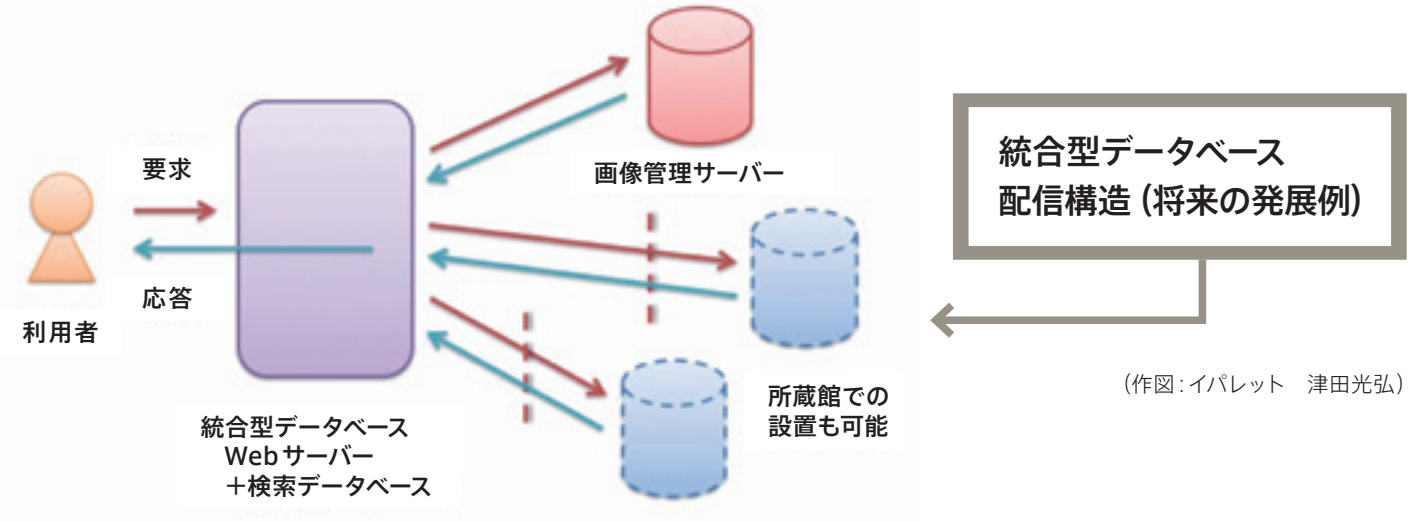
異なったジャンルのデータ群とデータ群とは、そのまま異なった機関と機関のデータであり、機関と機関との連携による統合を意味します。

統合のための構成は、公開用の表示･検索等を担うウェブサーバーと、外部から直接アクセスできない画像管理サーバーに分離することによって、資料公開方法の柔軟性と一部公開制限のある画像データの保安について両立を図ります。具体的には、マルチフォーマット対応の画像ビューアとIIIF（International Image Interoperability Framework）等の国際的規約、新技術による、運用者側と利用者側の双方に利便性の高い新世代型統合システムを目指しています。

この方式の利点は、画像サーバーをWebサーバーから分離するため、インターネットから画像への直接的なアクセスを制御でき、さらに画像管理サーバーにより、多様な画像フォーマットを用いることができるのです。

第一段階として、新しいシステムであり、システムとして機能するか、実証するための作業を今年度行います。第二段階とし





（作図：イパレット　津田光弘）

て、今後、将来的な発展した統合型データベースの構築を行うことになります。

4．連携機関、ならびにそのデータの状況

新潟大学地域映像アーカイブデータベース
http://arc.human.niigata-u.ac.jp/db/
は、現在、映像や音源などを着々とデジタル化しアーカイビングし蓄積しています。2015年10月段階で、写真約2万7,000点と動画約300本を新潟大学内で公開していますが、将来的には、総計で写真約10万点、動画約1,000本、音源約1,000点の公開を予定しています。

新潟県立図書館では所蔵する新潟県関係新聞マイクロフィルム（明治～昭和17年10月）約22万7,500コマのデジタル化を終え、貴重な新聞の保存媒体の多様化を図ると共に、データベースを構築しインターネットを通じて、地域における他の登録図書館での閲覧を可能とし、資料の有効活用を図ることを予定しています。

地域映像アーカイブと新潟県立図書館の連携による統合型データベースのシステムの構築を2016年6月に終え、その閲覧公開は、9月頃を予定しています。それに合わせ、今後の地域の関連機関のデータの統合を促進するための公開シンポジウムなども行う予定です。

さらに、教育における地域コミュニティの機能が弱くなっていることを受け、MALUI連携による統合型データベースを基盤として、弱くなったコミュニティと学校や社会教育施設との間を、情報・映像などを媒介とすることで再構築することをめざします。活力ある地域コミュニティの形成の中核に、学校や図書館などの社会教育施設を再度、位置づけ直し、また、中高年層のボランティア・チームを立ち上げ、地域に蓄積されている無形の知識や知恵を発掘し、伝達・継承し、蓄積することが求められています。■

新潟県立図書館でデジタル化した新聞